

「Diseases of the Liver and Biliary System」

by Sheila Sherlock

富山赤十字病院長・新潟大学名誉教授

市 田 文 弘

London 大学 Royal Free 病院の高名な S. Sherlock 教授 (O. B. E.) の「Diseases of the Liver and Biliary System」は肝、胆道疾患に関する外国のテキストの中で最も内容が理解しやすく新鮮でかつ最も多くの人に読まれているのは周知のとおりである。

本書の初版から 30 年を迎えた 1985 年に第 7 版が改訂され、面目を一新してから約 4 年を経て、ここに第 8 版が発刊された。第 7 版の改訂に際してと同様に、新しい情報を取り入れるために、従来の陳腐化した見解や古い参考事項を徹底的に整理し、削除している。そして最近の進歩が著しい肝、胆道疾患の US、CT による画像診断法を取り入れ、この版では新しく magnetic resonance imaging (MRI) を加えている。また、慢性肝炎に対してはイン

ターフェロンをはじめとした抗ウイルス剤による新しい治療法について詳細に記述されている。非 A 非 B 型肝炎については、その診断、臨床像の特徴について述べられており、現在、注目され急ピッチに研究が進んでいる C 型肝炎ウイルス抗体については触れられていないが、世界的な問題であることを力説している。また肝移植については、1988 年の 1 年間にアメリカだけで 2,000 例 (1 日 6 例の割合) に肝移植が施行され、腎移植と同様に一般化しつつあるので、肝移植の適応、成績、および合併症とその対応などについて詳述されている。

そのほか、この版からは primary biliary cirrhosis および sclerosing cholangitis を cholestasis の章から分離して、それぞれを新しい章にして詳述している。

本書の特徴は、従来から言われているように、難解な仮説を可能な限り単純化し、図式化するように努力が払われていることである。このことが、「単独の執筆者によるテキストで、これに匹敵するものは、他の医学分野には見当たらない」と高く評価される所以である。体裁の面でも、本文を多色刷りにして、従来の版よりも一段と見やすくなっているほかに、随所にカラー写真を配している。この第 8 版には 200 点以上の図譜と 1,000 点以上の文献を新たに追加し、総頁数 749 頁と図譜は 520 点 (うち 50 点はカラー写真) になっている。私自身が本書の第 5 版 (1975) を書評したことがあるが、その際の総頁数 821 頁と図譜 370 点 (うち数葉はカラー写真) に比べると、この第 8 版では総頁数が約 70 頁減少し、図譜が 150 点も増し、カラー写真が 50 点も使われていることは、改訂が進むにつれて、いかに内容が理解されやすいように努力が払われているかを物語っているように思われる。

749 pp. 520 figs. (50 in colour) 8th ed. 1989 B5判 ¥16,830 (税抜き)
Blackwell Scientific Publications, Oxford

日本総代理店 医学書院洋書部